

青少年通信

季刊 No. 3

発行: 横浜市青少年育成センター

横浜市中区住吉町4-42-1 関内ホール地下1階

Tel: 045-664-6251 FAX: 045-664-6254

Mail: ikusei@yokohama-youth.jp

URL: http://www.yokohama-youth.jp

青少年育成

と日本語教室



日本に住む外国人に関する言葉として「多文化共生」が思い浮かぶ方もいると思います。

多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」ですが、文化の違いを認め合う以前に、日本語が原因で、生きていくことに不自由している人がいるのではないのでしょうか。

今回は外国をルーツに持つ子どもの日本語教育を行っている団体にお話を伺いたいと思います。

トレボル NIHONGO教室

日本語が原因で学習に困難を抱えている児童生徒を対象とし、週5日、毎日通える学習支援教室を運営している。日本語教師経験者、児童生徒の母語が話せる先生などが教えており、単なる学習支援を行うだけの施設ではなく、学校でも家庭でもない、同じルーツ、背景を持った子どもたちの居場所としての役割を目指している。

「トレボル」の名称は、教室長が学生時代に所属していた学習支援教室の名前でもあり、現在は活動を終えてしまったが、「トレボル」を築立っていた子どもたち、関わってきた人が築き上げてきたものを絶やしたくないとの思いから、「トレボル NIHONGO教室」として名前を継承した。



横浜市金沢区釜利谷東1-46-14 八景市場102号室

データでみる青少年

日本語指導が必要な児童生徒数
神奈川県は全国で2番目!?

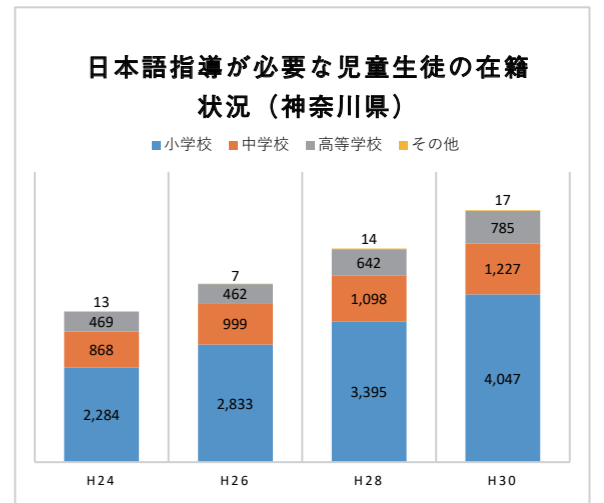


トレボルNIHONGO教室の西さんがかかわる子どもたちは、文部科学省の「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」より、H30年の調査では、全国で51,126名となり、10年間で1.5倍になっています。

神奈川県では6,076名となり、愛知県(11,276名)に次ぐ在籍状況となっています。神奈川県に在籍する在学者(約91万人)に占める割合は約0.65%で、全国で「山田」という名字が占める割合とほぼ同じです。

ここで注意していただきたいのは「日本語指導が必要な...」という点です。文部科学省の調査では、単純な「外国人児童・生徒の在籍数」は小中高併せて98,927名となります。日本語で不自由している子どもたちが「となりの山田君」ぐらいの距離にいるのです。

文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」
(https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/09/1421569_00001.htm)



(単位:人)

		小学校	中学校	高等学校	その他	合計
神奈川県	H24	2,284	868	469	13	3,634
	H26	2,833	999	462	7	4,301
	H28	3,395	1,098	642	14	5,149
	H30	4,047	1,227	785	17	6,076
全国	H24	21,763	8,798	2,410	213	33,184
	H26	24,783	9,395	2,604	313	37,095
	H28	29,406	10,595	3,372	574	43,947
	H30	33,985	12,331	4,172	638	51,126

その他は義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校

スタッフ★ブログ

「インタープリケーション」って知ってますか?

青少年育成センターで企画中の「自然遊び講座」について職員同士が話しているとインタープリケーションという言葉が出てきた。

- A: インタープリケーションって何ですか、初めて聞く言葉です。
- B: 例えば、落ちていたどんぐりを見つけて、「どこから落ちてきたんだろう」と声掛けをして周りを観察してみるとか、生えている植物をみて「どうやって種が運ばれてきたのかを観察してみたら、周りに同じ植物が見られないから、風が運んできたのか、鳥が運んできたのか」なんか問いかけることですね。
- A: 想像力に働きかけるってことですか。

- B: 観察したものの背景を想像する、うまく気づかせる人だね。自然観察、環境教育で使われる言葉で、ガイドとは区別されるかな。
- C: 保護者が子どもに植物の名前を聞かれてわからなくても、インタープリケーションをうまく使えるようになると、公園とかで遊ぶことの気が楽になるね。
- A: 自然観察以外の場所でも使えそうですね。

こんな風に、研修のテーマで気になったことを話し合っていく中で、大事なことを確かめながら研修をつくっていています。

育成センターのご案内

1月実施の講座

都会の中での自然遊び講座

1月8日(金) 9時~12時
※少雨決行
講師: 峯岸由美子氏
一般社団法人遊心 代表理事

SNS活用講座

①1月20日(水) ②1月27日(水)
各回19時~21時
講師: 杉浦裕樹氏
NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ 代表理事/ヨコハマ経済新聞 編集長

対象 日常的に子ども・青少年にかかわる方
定員 各回20人(受付先着順)
参加費 各回1500円

会議室の貸出

活動内容に応じて大会議室、小会議室を選べます。その他、和室、音楽スタジオなど多目的な活動を支援します。プロジェクトの貸出やフリーwi-fiなど設備も充実しています。

活動相談・情報提供

青少年に関する研修・講座の組み立て方や講師の紹介、地域の青少年活動の事例紹介や青少年関係の統計など活動相談や情報提供を行っています。

「青少年」のことなら、育成センターに

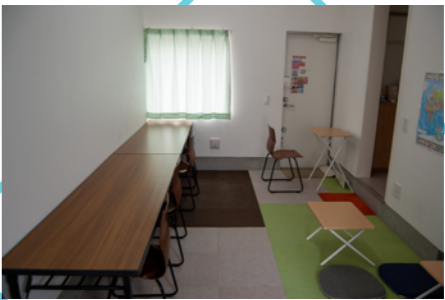
お問い合わせ
TEL: 045-664-6251
Mail: ikusei@yokohama-youth.jp



青少年育成センターのFacebookにご登録ください!
研修・講座等の最新情報が見られます。

たまに電話がかかってきて

「相談なんですけど」「みたいな状態になってますね。」



ある意味、好奇心から始めた
高校を卒業して、父親に「伯母がいる南米に行ってみないか」と言われたんです。当時の僕は勉強も、仕事もするわけでもなく、何かしよつて目標もやる気もなかった。「面白くなかったら1、2か月で帰って来たらいいよ」と言われたんですけど、なんだかんだけ2年近く住みました。そこでスペイン語も覚えましたが、知り合いの会社やチリの日本料理店で働いたり、ボランティア旅ともしました。

帰ってきて入学した横浜市立大学の「トレポル@横浜市」というサークルで、初めて外国ルーツの子の問題を知りました。日本語が原因で勉強とかに不自由している小中学生に勉強をサポートする。当時は南米の子とかかわることができると、ある意味好奇心から始めた感じですね。でも勉強を教えていく中で、世間一般に知られてる問題じゃないんだけど、結構な深い問題って、やりながら感じていくんですね。子どもたちの家での会話はスペイン語だったり、日本語の授業についていけない。親に「この漢字なんていうの」ってきくことができない。親は日本の義務教育を受けていないし、日本語ができてても片言です。そういうところからいろんな問題があると気づいたんです。その背景に何があるのか知るための研究を大学でやりました。親と直接話をして、仕事の状況とか、どついった生活してるのかつところをインタビューしてました。

大学卒業後は普通に就職したんですよ。けど、知っていた子達が高校辞めたとか、工場で働いてるとかを聞いたり、ニュースでそういう問題を見たりして、状況って全然変わってないなって感じなんです。このまま社会人続けて、遠くから見過ごす感じがいいのかみたいな、そういう思いに駆られたじゃないけど、2018年の3月に退職しました。
まず教員になって学校の中で、自分の手の届く範囲でなにかやれたらなって考えてたんですね。ただその頃にある日本語教師との出会いがあつて。日本語



教室長 西 涼光さん

高校を卒業し伯母の住む南米ポリビアへ渡り、2年後帰国。その1年後に入学した横浜市立大学にて外国ルーツの子どもたちへの学習支援サークル「トレポル@横浜市」に出会い、南米生活で習得したスペイン語を活かしながら支援活動。大学卒業後は一般企業に勤めるも、子どもたちを取り巻く環境が変わらないことでもたつてもいられなくなり、6年間の会社員生活にピリオド。一念発起し2019年4月に事業として「トレポルNIHONGO教室」を開校。



勉強だけでは足りない支援

学生の時は勉強の方にフォーカスして見てましたね。研究ではひとつの家族に注目して、労働環境だとかいつからどこに住んでいて、仕事を何年して、ということ聞いていました。話を聞くと、職場で暴力を受けちゃったりとか聞いて、結構きつい現実に向面してるなって、なかなか心が痛んだりもしたね。勉強だけじゃないんですよ。痛切に感じてるんですけど、子どもたちには家族があつて、親は働いているわけで。



今は生活相談つてのがすごく多いです。離婚や借金の相談とか、警察署だったり、裁判所に رفتたりとかするところもあるんですよ。そこまではなくても授業参観や三者面談とか、あとは病院の通訳とか。生活自体にやっぱり日本語で困難かかえているので。もちろん勉強がメインですけども、そつちの方がウエイトが大きくなるのはすごく感じていますね。例えば、三者面談・進路相談つて通訳がないと何もできないですよ。親の代わりに子どもが通訳したりもあります。ただ自分に都合のいいように言ったりしちゃうので、通訳に適さない。最近はある僕を呼びますね。僕の電話番号つて、金沢区と追浜のペルー人に勝手に出回ってるんですよ。歓迎なんですけど、「たまに電話がかかってきて」「相談なんですけど」「みたいな状態になってますね。」

日本人と知り合う難しさ

外国人つて日本人との関わりはあまりないんですよ。それはみんな言ってます。大人です。特に。1つ言葉の問題があつて、結局ペルー人同士で集まつてスペイン語を使つての生活を何とかしてます。1つつかそれがすべてつていうぐらい大きい。日本人と知り合うために多文化共生のイベントとかありますが、単発のイベントやつて盛り上がり、また冷めて、またイベントしての繰り返しな



ので、根付かせないという意味です。日本人も興味を持って参加して、連絡先を交換するとかあつたりします。けど、助けてつて言われて、物事によるけども、負担だったりする事とかもある。イベントはきつかけにはなるんですけども、継続的に関わることつて、ちょっと厳しいかなつてのはあります。だから常にやつてる所は、抛り所じゃないけどいい場所になるのかなつて思つています。

どう関わればいいのか

見た目とか、話す言葉が外国人だからつて、特別扱いしないで欲しいつてのはあります。ね。違つて本当にそれだけあつて、日本人同士の背の高さが違つとかと同じよつなものと思つて、大人同士でもコミュニケーションを取つて欲



しいなつて思います。日本人の大人と外国人の子供とはコミュニケーションある方なんです。日本人とかかわりが少ないというのは大人の方から聞こえてくる言葉なんで、そこをもつと増やしたいのはあります。大人と繋がる、その下にいる子供もつながらやすくあります。難しいところあるんですけど、この壁を取つ払いたいなつて。けど、まずは知つてほしい。全然まだまだ知られてないのがあつて。SNSで発信とかしてるんですけども、まだまだ足りない。どんどん発信して最初はみんなが知ること。それをきつかけにして、どついった問題を考えたりとかがあると思つて。